

ラ・ボエーム

あらすじ



<第1幕>「愛らしい乙女よ」 © Ramella & Giannese

第1幕

パリの屋根裏部屋

クリスマス・イヴ。詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネの4人が暮らす屋根裏部屋。

ロドルフォとマルチェッロが、寒さに震えながら仕事をしている。耐えかねたロドルフォが原稿を暖炉にくべていると、まずはコッリーネ、続いて首尾よくお金を稼いだショナールが、食料や薪を携えて戻ってくる。一同は大喜び。

すると家主ベノフが家賃を取り立てに現われる。上手くあしらって追い返し、皆は夜の街へと繰り出すことに。ロドルフォは「原稿を仕上げに行くから」と言って残り、3人は下で待つことにする。

ロドルフォが原稿を書き始めようとしたとき、ノックの音がして、お針子ミミがローソクの火をもらいにくる。だが胸を病んでいるミミは、気分が悪くなり、そこに休む。美しい顔に見入るロドルフォ……。ほどなく帰る

うとするミミだが、入り口で部屋の鍵をなくしたことに気づき、風でローソクの火も消えてしまう(本演出では、ミミが自ら消す)。

ロドルフォはわざと自分のローソクの火も消し、暗闇の中、2人で鍵を探し始める。ロドルフォは、見つけた鍵を隠し、探すふりをしてミミの手に触れる。彼は身の上を語り(冷たい手を)、ミミもそれに応える(私の名はミミ)。ロドルフォは下から呼ぶ友人たちに先に行くよう頼み、2人は愛を誓い合う(愛らしい乙女よ)。

第2幕

カフェ・モミュス

第1幕の直後。パリのラテン街にあるカフェ・モミュスの店先は、物売りや群衆で大賑わい。

ロドルフォとミミが、仲間のもとにやってくる。子供たちの喧噪の中で食事を始め、しばらくすると、マルチェッロのかつての恋人ムゼッタが、パトロンアルチンドーロを従えて登場する。

ムゼッタは、マルチェッロが無視するので、気を引こうとする(私が町を歩くとムゼッタのワルツ)。心中穏やかでないマルチェッロ…。彼女は、足が痛いと言ってアルチンドーロを靴屋に走らせ、その隙にマルチェッロと抱き合い、皆と合流する。

ムゼッタは、彼らの勘定書をパトロン払いにし、戻ってきたアルチンドーロは、金額を見て仰天。



<第2幕>「私が町を歩くと」 © Ramella & Giannese

第3幕

アンフェール門

2月の雪の朝。オルレアン街道のアンフェール門のそば。マルチェッロとムゼッタは、門の横にある居酒

